

沖縄カトリック中学高等学校 学校通信 <h1>野ばら</h1> 2月号	発行 沖縄カトリック中学高等学校 〒901-2215 宜野湾市真栄原3-16-1 TEL 098-897-3300 http://www.catholic-okinawa.ed.jp/ 2013年1月31日
--	--



高等学校卒業に際して期待すること

校長 夏見隆晴

新しい年も早一ヶ月が過ぎ、学園では高校3年生の卒業を迎える時となりました。人生にはいろいろな時があり、後になって、あの時が自分にとって一つの大きな節目だったと考えられる時というものがあります。そんな時の一つが高等学校の卒業という出来事であると、わたしは考えております。

親のお陰で、私学で平穏な高校生活の日々を送ることができた生徒たちは、たとえいろいろなことがあったにしても、それは言わば一様に温室の中での守られたものであったというべきでしょう。ところが既に、皆に同じ風が同じように吹くわけではないという実感が、一人ひとり肌感じて毎日を送らなければならない時が既にやってきました。昨日まで慣れ親しんだ友との別れも、目の前のものとなりました。

それに離れることなどあり得ないと思っていた家族との関係にも、微かな動きが起こっていることを、子供の側からも認めざるえない時がきたのです。それは、親から自立して生きていくためには、自分の能力を認めてくれる人たちのもとへ行く以外に方法がないからです。さしずめ将来の職業に直結する大学入試は、その最たるものと言えるでしょう。

わたしは生徒たちに「学校は自分が行く学校が一番であると思うことだ」と諭します。わたし自身、自分にそのように納得させて人生を歩んできたように思います。そして実際、卒業させていただいたどの学校にも感謝の気持ちでいっぱいです。ことに大学選択で、当時は遠方の東京を選んだわたしに対して、親も最初は寂しい思いをしていたようですが、わたしの楽しそうな大学生活を目の当たりにして、これで良かったのだと思うようになってくれました。送り出してくれた両親や兄弟たち、そして受け入れてくれた大学とそこで共に学んだ友人たちは、今もわたしにとって最高の出会いと思い出です。

それでも大学への「入学は終わりではなく始まりである」という有名な言葉を、わたしは急いで生徒たちに対して付け加えます。どんなことにも「もうこれで良い」ということは無いのです。学ぶということに終わりはないのです。人間は、生涯学び続けることができれば、その人の人生は勝利であったと言えます。そのためには、学びに一区切りついたところで、新たな学びのテーマを見つけるようなことがあれば、勇気を出して新しい環

境を求めて移動する勇気も必要でしょう。自分が「おかれた場所」はここであると納得できるようになるためには、多少の回り道も必要でしょう。

お子さんがそれぞれ努力して、自分も生きがいを感じ、他人からも期待されていると感じられるようになると、その時はそこ「おかれた場所で咲き」続けて、有意の人生を全うして欲しいものです。きっと主イエス・キリストの導きが豊かにあります。



保健体育科
知念秀憲

スラムダンク勝利学

「スラムダンク勝利学」という本があります。この本は、「スラムダンク」という、井上雄彦著のバスケットを題材にした超人気漫画です。スラムダンク勝利学は、そのスラムダンクの中の話の例を挙げて、ビジネス、スポーツなどに応用できるノウハウを述べている本です。また、セルフイメージを高めるため、日ごろ生活する中での意識の持ち方や、姿勢を解説しています。

勝利、というよりは「自分をいかに高めるか」という内容です。最近、何かに集中出来てない、緊張感がない現状を改善したい、という人にオススメです。

目標設定の大切さ：目標のためにすべき事に対する認識と実践こそが結果を生む。目標なしに仕事をするのは、ゴールのないマラソンをただだらと走っているようなものだろう。そして、チームの目標は、全員が共有することが大切。

セルフイメージには「ミラー（鏡）の法則」がある：他人に対するマイナスのイメージは自分に返ってくる。自分の良いところを見ることと、仲間の良いところを褒めることが大切。

問題が起こったときの解決方法：ただ闇雲にあせったり、うろたえたりするだけでは、問題の解決にはつながらない。まず問題点のピックアップ、次に×を○に変える解決方法を考える、その際その問題を克服したときに、どれだけ素晴らしいか考える。

目標達成のために一番大切なことは「情熱」：目標に情熱が注がれることで「ビジョン」になり、そのビジョンが、現在地と行く先（目標）を結びつける道のりになってくる。

チームワーク：お互いに、お互いのことを理解すること。理念を持ち、みんなの向かう方向（ベクトル）を一致させることが大切。などなど。

バスケットボールの練習は、意識的な行動を繰り返すことで、下意識（実力）を高める作業です。たとえば、基本のランニングシュートでは、最初は「一歩、二歩」と頭の中で思い浮かべながら練習を行うが、慣れると「一歩、二歩」と意識しなくても自然と出来るようになってきます。これを下意識といい、一流プレイヤーのスーパープレイは、日ごろの練習で培った下意識が発揮されることによるものです。

しかし、どんなに練習をしてどんなに広い下意識があろうと、本番や試合で発揮できない人がいます。これは、練習量で伸びる「下意識」とは別の「セルフイメージ」の問題で、このセルフイメ

